



第63回日本身体障害者福祉大会 ぐんま大会「基調講演」の様

はじめに、基調講演として内閣官房東京オリンピック・パラリンピック推進本部事務局参事官の御手洗潤氏から、「ユニバーサルデザイン2020行動計画がめざす共生社会と障害者団体の役割について」と題したご講演があり、共生社会に向けた心のバリアフリーの取組を加速させるためには、その活動の後押しに、障害団体や障害のある方々に大いに関与してもらいたいとのご発言に、日身連に対する期待の大きさを感ずりました。また、日身連をはじめとする障害者団体や事業者、行政関係者がともに検討して作成した『心のバリアフリー』を学ぶアニメーション動画を視聴しました。参

大会1日目の6月13日(水)午後、ホテルメトロポリタン高崎(群馬県高崎市)で、「心のバリアフリー」の推進にむけて、地域社会における日身連と加盟団体の役割について」をテーマに、150人を超える参加者を迎え、政策協議・基調講演とシンポジウムが盛大に開催されました。

「心のバリアフリー」の啓発・促進を ぐんま大会 政策協議で基調講演とシンポジウム

日身連

発行所
社会福祉法人
日本身体障害者団体連合会
(中央障害者社会参加推進センター)
発行人 阿部 一彦
東京都豊島区目白3丁目4の3
ディアダックビル4階
TEL03-3565-3399(代)
FAX03-3565-3349
http://www.nissinren.or.jp
Japanese Federation of
Organizations of the
Disabled Persons (JFOD)
年間購読料 正会員1部 300円
非会員1部 1000円



御手洗潤氏

加者からは、「この動画を地域の研修に活用したい」など、大変好評をいただきました。

基調講演を受け行ったシンポジウムでは、開催地を代表して群馬県身体障害者福祉団体連合会会長の杉田安啓氏、東京都身体障害者団体連合会会長の小西慶一氏、札幌市身体障害者福祉協会会長の浅香博文氏が登壇、ご講演いただいた御手洗参事官と阿部会長にコメントーターとして加わっていただき、福岡市身体障害者福祉協会会長の中原義隆氏の進行でディスカッションが繰り広げられました。シンポジウムの1つ目の柱では、心のバリアフリーで注目していることや、それぞれの団体で実践していることなどをお話いただきました。

2つ目の柱は、当事者団体の特性を活かした事業活動の展開の可能性などについてディスカッションしていただき、シンポジウムの皆さんからは、気づき、共感、つながり、コミュニケーションが障害理解を広げるためのキーワードになるといった指摘や、実体験から発信できることの重要性といった



第63回日本身体障害者福祉大会 ぐんま大会「シンポジウム」の様

発言をいただきました。

会場との意見交換では、心のバリアフリーに対する地域のリーダーとしての日身連の活動のあり方や、障害理解への気づき、学校教育の重要性、生きた教育とは何かというご意見も上げられました。

基調講演とシンポジウムを通して共有できたことは、2020年に向けて社会が障害のある人に大きな関心を寄せ、障害理解

に積極的に取り組んでいこうという流れができてきたことをしっかりと受け止め、日身連と加盟団体が連携しなければできないこと、つまり、全国を網羅している日身連の組織力を活用し、障害に対する理解、特に合理的配慮への気づきを地域に根づかせる活動を一丸となって進めていこうということでした。

2020年以降も地域社会への貢献に対する人びとの意識の変革をレガシーとして、日本の社会に定着させる取組の実現にむけ、日身連と加盟団体がしっかりと連携して、全国へ広げていくことが重要なポイントであることを確認し、政策協議を終えました。